

校内イチ可愛い女子が  
○年生だったが  
誘ってきたので校長先生が  
「セックス教育」してあげた



DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

基本13枚 74ページ

ここは市立加音〇学校  
昼休みも終わり、午後の授業が行われている。  
校長の私は授業中の校舎を巡回していた。

今日もいい天気だ

3年生の教室まで行くと  
少女がひとり物思いに耽っていた。



あっ ♪

校長先生ツ♡

キミ  
もう授業ははじまってるぞ！



他の生徒はどうしたんだい？

うん...  
移動教室ッ

んんんんん...  
キミは？

ー千ヨツト  
先生に相談が...

まさかクラスでいじめられられているのか？  
私は二人きりで話すため校長室へ行った。



彼女の名前は調<sup>テウ</sup>辺<sup>ヘン</sup>アコ。  
○学3年生という割には大人びた性格だ。  
両親が遠くに住んでいるらしく  
祖父と二人暮らしということもあるのだろう。

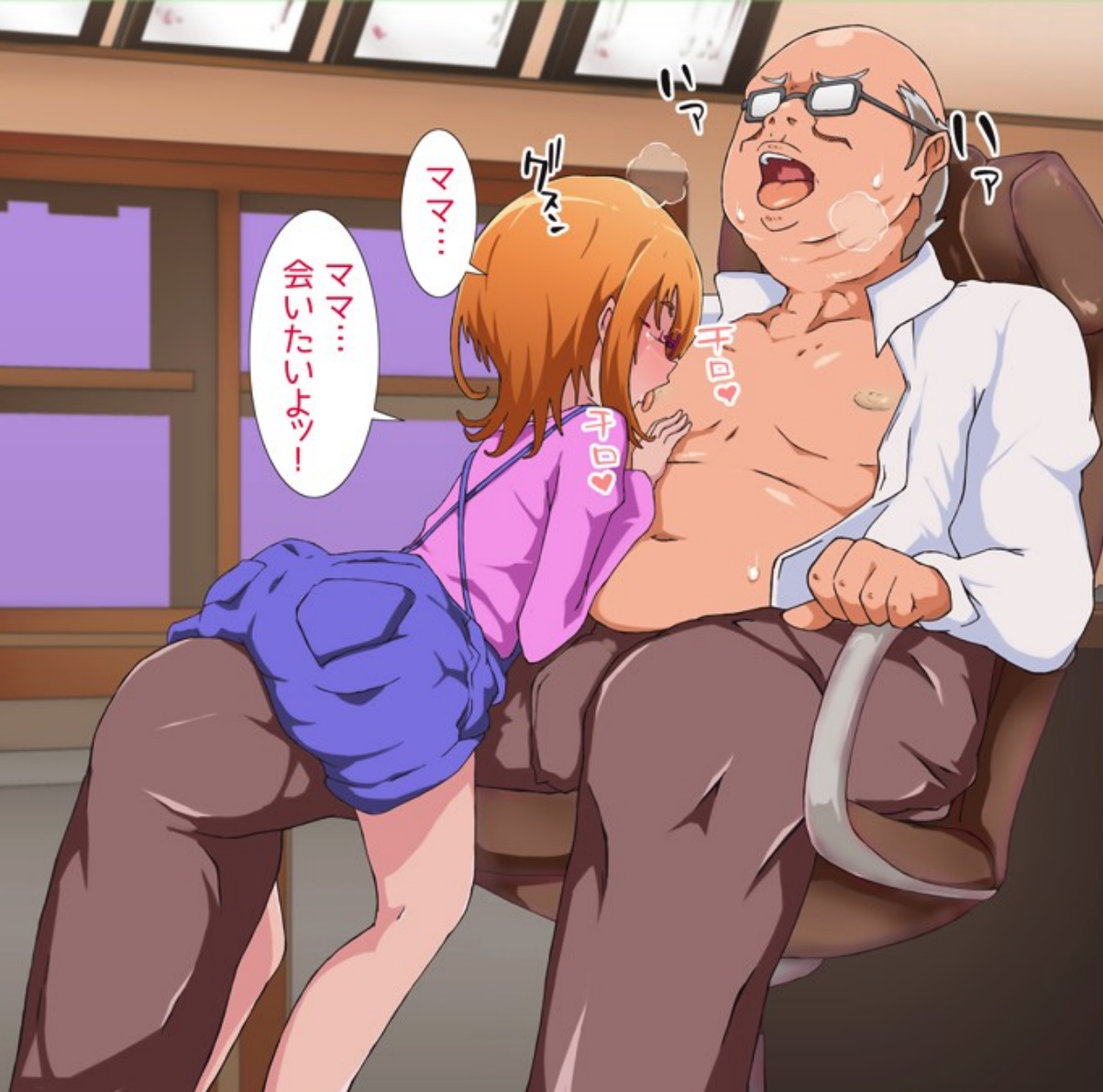
エヘヘ♡

5時間目

サボっちゃった♡

しかし、彼女が急にソワソワしはじめた。





身内には弱さを見せたくない反動か二人きりになった途端  
タガが外れてしまったようだ。  
椅子に座るなり膝上に馬乗りになって  
ワイシャツのボタンを外され乳首をチロチロ舐めてくる。  
やはりママのおっぱいが恋しいのだろう。

こうして頭を撫でていると  
リンスの匂いに少女特有の甘い香りが混じって  
私のチ○ポを刺激してくる。  
その反応がズボン越しに伝わり  
彼女の肘に当たっていることに気付いた。



ヒジにおちんちんが当たって…  
ズボンがパンパンになって大きくなってる。

キモチイイッ

キモチイイッ

音を立て夢中になって乳首にしゃぶりついてくる彼女は気持ち良くなってきたのか腰を振り出し喘ぎだした。

んふんふんふんふん

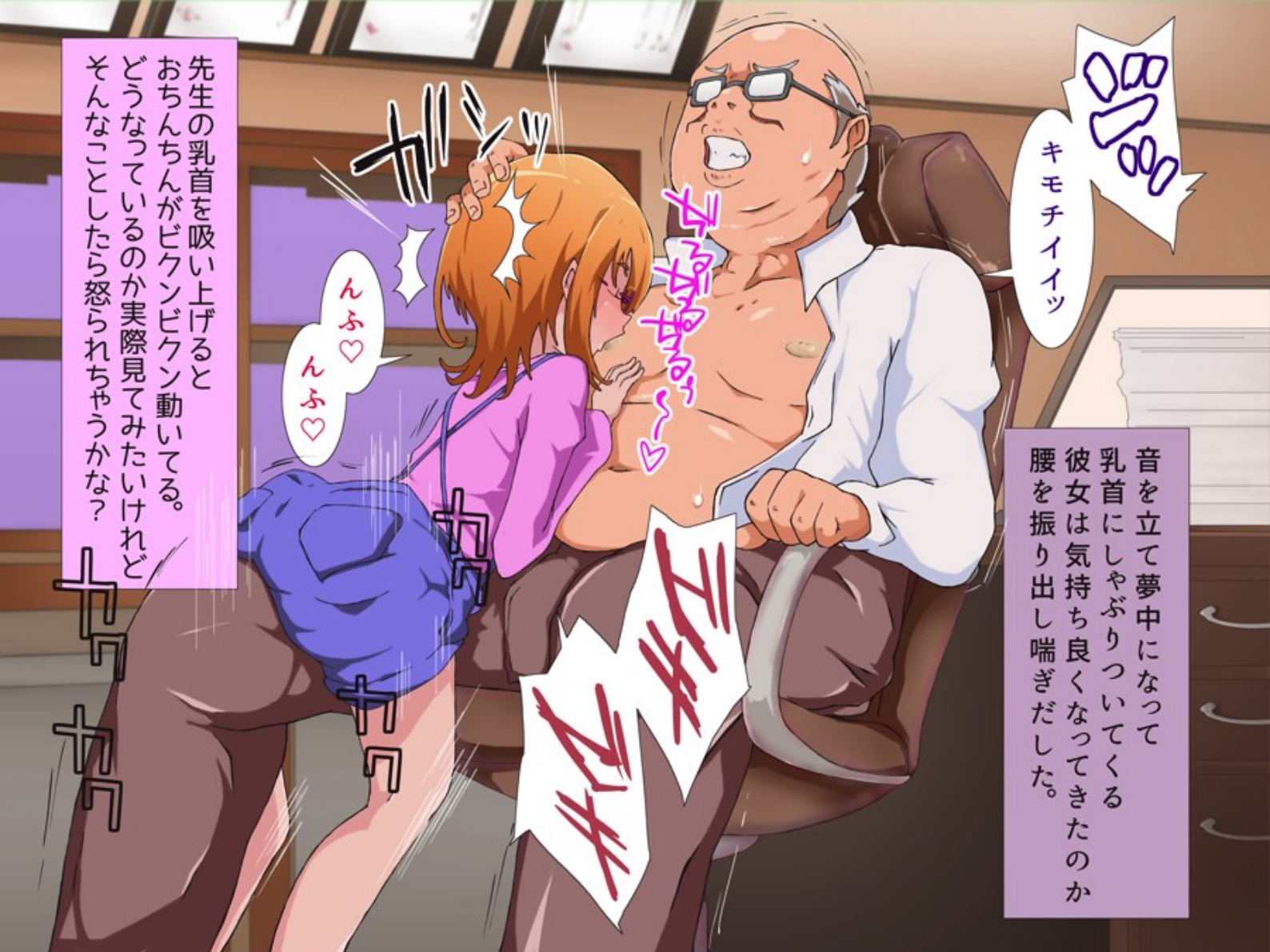
んふ♡  
んふ♡

先生の乳首を吸い上げるとおちんちんがビクンビクン動いている。どうなっているのか実際見てみたいけれどそんなことしたら怒られちゃうかな？

カカカカカカ

んふんふんふん

カカカカカカ





RRRRRRRR

先生♡

デ・ン・フ♡

ふんふん

電話鳴ってるよッ♡

この匂い…  
おじいちゃんと同じ匂い…

忙しいおじいちゃんには  
甘えることができないから  
スツゴクうれしいな♡  
んもうッ!

おいおいッ!  
こんなときに誰だ?  
放っておくか…?  
しかし、出ないと怪しまれるなッ!

カカカカ

教頭先生  
どうしたんですか？

校長もうじき  
職員会議が始まります。  
議事録ですが・・・

・・・  
どうかされましたか？

イヤッ！  
なんでもないッ！  
会議室へ行こうッ！



電話中を良い事に  
ズボンを下ろされ  
チ○ポを握られて・・・  
おうふッ！  
細い指が脈打ってる部分を  
締め付けてくるッ。

ズブッ！！

おはな

おはな

スツゴイ♡  
おちんちんってこんなに固くなるの？  
おじいちゃんとお風呂に入ったとき  
チラッと見たことあるケド  
フニャフニャだったし・・・



ふんぞり

校長ッ！  
大丈夫ですか？  
なんだか具合が悪そうですが

急に乳首にかじりついてきた為  
思わず声が出てしまった。  
しかし、平静を装っていなければ…  
こんな状況を他人に見られたら  
たちまち懲戒免職だッ！

ハハハ

ガジ  
ガジ

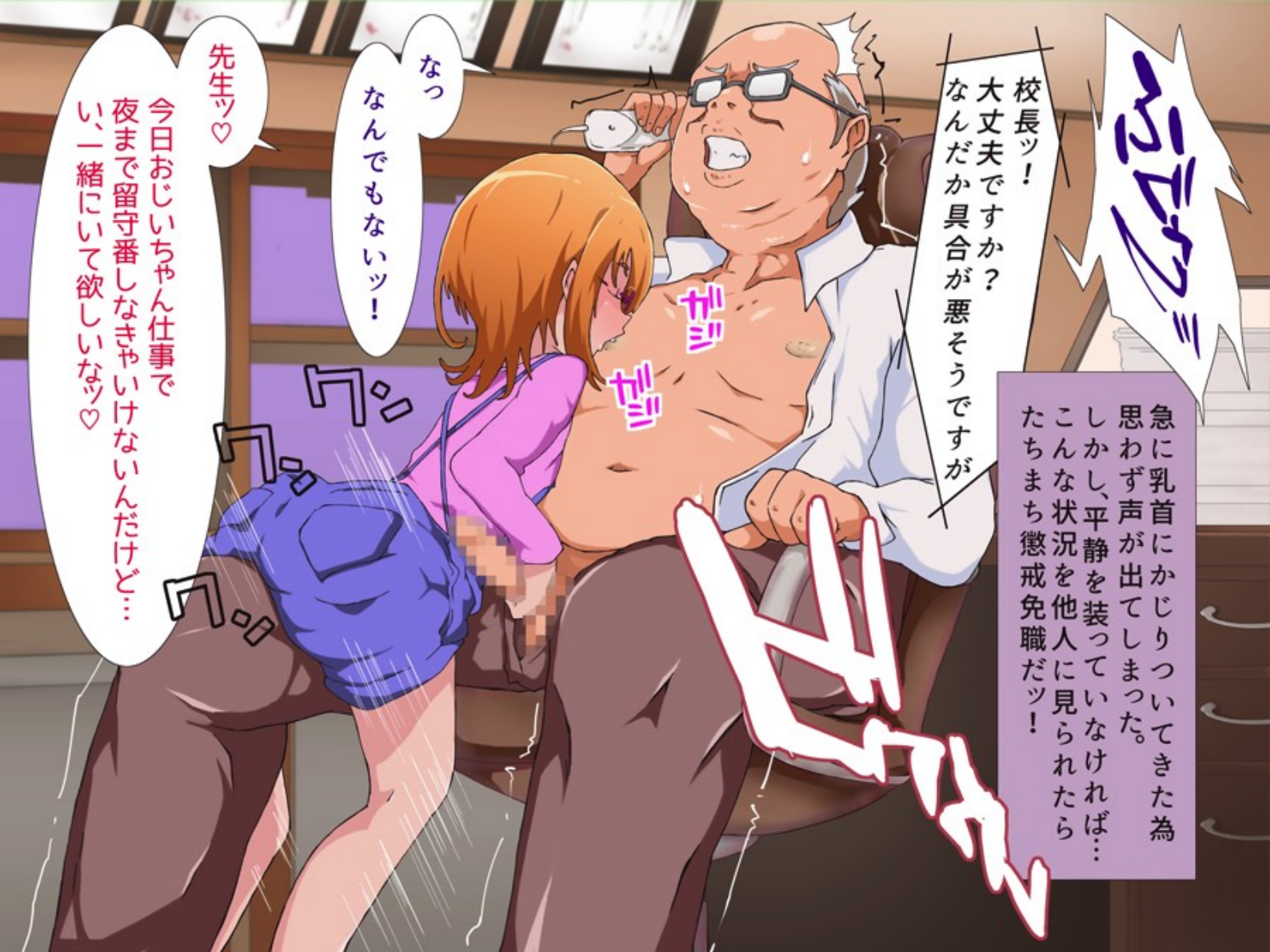
なっ

なんでもないッ！

先生ッ♡

今日おじいちゃん仕事で  
夜まで留守番しなきゃいけないんだけど…  
い、一緒にいて欲しいなッ♡

カッ  
カッ  
カッ



ゴボゴボ

どうやら風邪を引いたようだ

大事を取って  
今日は帰るよ！

後は任せた

わわかりました

ガギャ

まるで少女に犯されているみたいだ。  
彼女自身も腰を動かしてオナニーに耽っている。  
自分では如何わしい行為とは思っていないらしい。  
机の角に股間を擦りつけている  
感覚なのだろう。

限界だッ！

コスって！  
強弱をつけて  
おちんちんこすって！

ニチ…  
ニチ…

「アハハハ？」

やったあ来てくれるんだッ！  
だったら  
先生の言うこと聞いて頑張らなくっちゃ♡  
おちんちんの先っぽ  
ぷくうってふくらんできた♡  
それにネバネバしてきてる  
…汗かな？

先生？  
苦しそうだケド・・・  
な、何ツ？  
おちんちんから  
白いモノが勢い良く出てくるッ

カッ  
カッ  
カッ

カッ  
カッ  
カッ

スッゴイ♡

ビュクビュクって  
先生コレって  
おしっこなの？

彼女は精子を知らないようだ。  
知らない事は教えないと

オチンチンが勢いよく出てくる



彼女を抱きかかえると  
おもむろにリコーダーを啜えた。  
どうやら5時間目は音楽だったらしい。

ねえ♡

もういつかい♡

さすが○学生だ

ヒョ

今のもう一回  
やってみて♡

催促しているのかカラダが揺らす度に  
サラサラの髪が乳首をこすりつけてくる。  
射精の余韻に浸っている暇などないようだ。



興味津々な彼女は  
オナニーを食い入るように見ている。  
彼女から発せられる甘い匂いが  
チ○ポを刺激して  
今さっき出したばかりの事など  
忘れるほどピンピンだ。

わぁ？  
て…  
手伝う？

うわぁ♡言っちゃったぁ♡  
自分からおちんちんこすりたいて♡  
またおちんちん大きくなつてきてる♡  
男のヒトってこうやって  
シコシコこすって白い液出すんだぁ♡





お願いしようかな？

やったあ♡♡♡  
おちんちん触れるッ！  
プニプニした感触が  
とっても気持ちいいんだもん♡

？

今度は  
そのリコーダーを  
使ってください？

えっ？  
どろどろして？

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



リコーダーの口と  
チ○ポの先つぼを  
重ねてごらん♡

ふふふふふ

こんなカンジでいいの？

アハハハ

ド  
ク  
ク

今まで啜えていたから  
ほんのり温かくヌルついている。  
リコーダーの先から  
ちよっぴり残った彼女の涎が  
尿道に向かって注がれてくる。

あ  
は  
は

先生♡

あたしのリコーダー  
どう？

痛くない？

ああ♡♡  
ビクビクしてるのが  
リコーダーから伝わってる♡

ぴい

ぴい

ハア  
ハア

大丈夫だよ

とっても気持ちいいよ♡  
もつと強く突いてみてごらん？  
そうすると白いのが  
イッパイ出てくるんだ♡

うん……

うはあ♡♡こいつはイイツ♡  
心地よい微振動が  
玉袋まで響いて  
急速に精子を  
作り出しているのがわかる。



こうしてれば  
白いの出てくるの？

じゃあ  
強めに  
さっさと

エイッ♪

リズムカールに  
エイエイッ♪

おっ  
おっ

上手い

上手いぞッ！

トッ！  
トッ！

ンッ  
ンッ

まるで子宮を小突いている気分だ



うふっ♡  
思いつきリリッ、ジュッ、ジュッ  
リコーダーがナニとずっててる♡  
白い液が穴から  
勢い良く飛び出てきてる♡

5時間目のチャイムが鳴ると  
私たちは彼女の家へと急いだ。

彼女の部屋は甘い匂いを放っている。  
オトコの汗臭い部屋とは大違いだ。  
彼女がベッドへ座ると  
私の目を見るなり頬を染め  
無防備な格好をしてきた。

先生ばかり♡  
気持ち良くなって

あ、あたしも  
き、気持ち良くなりたいな♡

はあ♡はあ♡  
なんでだろう？  
おしっこするところが  
ムズムズして熱くなってる♡



未発達な  
おっぱいとおま○こが  
目の前に……

おしりの穴まで  
丸見えだツ!

んっ♡

そんなに  
見ないでっ♡

ううう♡  
はずかしいッ♡  
先生におしり見られてるっ♡

ハァハァ



どわどわ

まずはアナルを…

実際に綺麗なアナルだ。  
見ただけで涎が溢れてくる。  
おま○こはぽつてりとして張りがあ  
る。  
おまけに天然パイパンだ。

羨ましいわ

イヤッ♡

そんなところッ!

おしりの穴舐めてる?  
舌先がゆっくり奥の方へ  
入ってくる。

いっ  
あ

イヤッ♡



アナルの刺激に反応して  
マン汁が溢れてくる。  
クリトリスも敏感になつてる。  
今にもイキそうな表情だ。

*とんだ淫乱少女だ*

どうだい？

ほぐれてきたようだね♡

*おん*

*おん*

はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡はあ♡  
気持ちよすぎてる…声が出ない♡  
ん♡ん♡ん♡奥の方まで  
へろへろに舐められてる♡♡♡



おしりホジられてえ♡  
ピンカンになつてるぅ♡  
もつと奥まで・・・  
奥までホジつてえ♡

はあ♡はあ♡  
カラダが熱い♡

もつと・・・もつと  
♡♡♡♡♡♡♡♡♡

トロ♡

にゅ♡

にゅ♡

口元が緩んで美少女の顔が  
スケベな  
「オナナの顔」になってきている。





もつと奥まで  
ホジって欲しいかい？

ハイッ♥

アッ

アッ

アッ

ワッ

ワッ

おしりキモチイイ♥  
もつと気持ち良くなりたい♥

舌の先に力を入れて  
硬直させ押し込んだら・・・  
ちゅっ！  
潮吹きッ！  
処女ま〇こでも潮吹くんだなッ♡

おしゅこお♡  
おしゅこ止まらないよお♡  
先生にナメナメされて  
気持ち良くなつて  
イッパイ出てくるっ♡♡



もうガマン出来んッ!

どうだい?  
気持ち良かったらう?

このホグれたお尻に  
おちんちん入れると  
もつと気持ち良くなるんだよッ♡

イイッ  
イイッ  
イイッ

ーウ  
ーウ

イッ  
イッ  
♡

イッ  
イッ  
♡

イッ  
イッ  
イッ  
イッ  
イッ

ハッ♡

頭の中がシビれてくるう  
おしりの奥までおちんちん入れて  
ヌルヌルおしっこ  
もつとピュッピュッしたいッ♡



彼女は自ら股を開き  
ち○ぽを受け入れ易いように脚を抱えている。  
アナルをタツプリ舐めた為  
パクパクと餌を欲しがっている鯉のようだ。  
ここは処女マ○コは後まわしにして  
まずはアナルに挿入だ。

息遣いが荒くなって  
乳首がプツクリ  
膨らんできて

このおちんちんを  
どうして欲しいんだい？

先生ッ  
早くちょうだいッ！  
ビクビクおちんちんッ  
おしりに入れてえ♡

おちんちんビクビクしてるっ♡  
先生のドキドキが  
おちんちんから伝わってくる。  
あたしはいつでもイイよ！  
未知の感覚を味合わせてえ♡♡





は・や・ん・す・い・す

わかった!  
わかった!

今くわえやるっ

おじいちゃん  
何処で覚えたのか  
勃起ち○ぽに息を吹きかけて  
催促してくる。  
学校では教わらなくても  
オナナの本能が  
そうさせているのかもしれない。



なんて気持ちいいんだッ！  
のけぞる位の感覚が全身を駆け巡るッ！  
柔らかな腸内を捲り上げて、  
ち○ぽが一気に埋まっていく。

あぁ♡♡  
入ってくりゆううう♡♡

これが先生のおちんちん♡  
舌と違ってゴツゴツして  
届かなかった奥まで広げられてる♡  
はぁ♡はぁ♡

彼女が声を荒げて  
絶頂に近づいていたのがわかった。  
そこで私はベッドが軋む程  
奥まで突きイかせようとした。

しかし、  
彼女の発せられる声で  
腸内がキュウ♡キュウ♡収縮し  
チ○ポを締め付けてきた瞬間  
キンタマ中の精子を  
腸内に注ぎ込んでいた。  
自分の方が先にイカされてしまったのだ。





私たちはバスルームへ行き  
彼女のカラダを洗うことにした。  
またアナルを舐めるときに  
自分の精液が口に入ったら最悪だ。

こっちへおいで♡

ズ  
ッ  
ッ

ガ  
ッ  
ッ

かああ..  
ええっ？  
イヤだッ♡  
そんなトコッ！  
あたしイッパイ汗かいてるし  
汚いよお♡  
臭いし.....



いい匂いだあ♡  
肌の張りも申し分ない。  
シャワーの水が弾く様が私とは全然違う。  
これが○学3年生の肌なのだ。  
マン汁がヌルヌルと止め処なく出てくると  
クリトリスに擦り当ててる。

すると卑猥な音がバスルームに響いた。  
彼女はその音に恥ずかしく  
腋汗を掻いているようだ。  
私はねつとりと吸い付いて  
柔らかな肌から湧き出てくる汗で口を潤した。

はっ♡  
恥ずかしい汗飲まれている♡  
だけど気持ちいいよあ♡  
気持ち良くてネバネバおし♡  
イッパイ出てくる♡♡





耳を澄ますとドクンドクンと心臓の音が聞こえる。  
まだ緊張しているのか鼓動が早い。  
私はおま〇こを擦こって緊張をほぐしながら  
アナルに手を伸ばした。

おま〇こ  
おま〇こ  
おま〇こ

ハハハ

コ  
コ  
コ

ガ  
ガ

ア  
ん？

で先生？  
おしりだめえ♡

おしりイジられると  
ドキドキしてくると  
おちんちん入れられた時みたい  
になっちゃう♡♡♡

先生の指が奥まで入ってきてかき混ぜてくる。  
おちんちんと違っておなかの中で  
ウネウネ動いて・・・  
気持ち良くなってくる♡♡  
カラダもボーっとしてのぼせてきている感じ♡

ワキ指うまじい

ニギニギ  
チクチク  
チクチク

チクチク  
チクチク  
チクチク

チクチク  
チクチク  
チクチク

チクチク  
チクチク

チク

チク

はぁ♡はぁ♡  
あたし・・・  
と・・・トイレに行きたい♡  
おしっこしたい♡



彼女はモジモジしながら訴えてかけてきた。どうやらバスルームでおしっこするなんてはしたなくましてや私が見ているのがとても恥ずかしいのだろう。彼女はひたすらガマンしているようだが私は意地悪にもクリトリスを責め続け尿意を促した。

受け止めてあげるから  
遠慮しないで  
私の手の中に出しなさいッ!

はっはっはっ

無理っ!

そんなこと出来ないよぉ♡

でもおしりググポグポされてると  
力が入らないッ♡

あはははは

あははは



とうとう尿道からチヨロチヨロと  
躊躇いがちに私の手の中に漏らしてきた。  
羞恥からか目を閉じて喘ぎだしたその顔は  
もう○学生とは思えない表情をしていた。



しかし、バスルームで  
お漏らしをしてしまった後悔と罪悪感に  
とうとう泣き出してしまった。  
やはりそこは○学3年生だ。  
私は彼女を宥めながら  
アナルセックスで汚れた  
腸内の異物を掻き出した。

風呂を出ると私はキッチンに行き  
冷蔵庫から栄養ドリンクを取り一気に飲み干した。  
どうやら同居している祖父の愛用品みたいだ。



再び彼女の部屋に行くと  
彼女は裸でベッドに横たわりグッタリしていた。  
のぼせてしまったようだ。  
私は彼女両脚を左右に押し広げる格好にし  
おま○こにち○ぽの先端をこじ入れた。



彼女の膣内は心地よくヌルヌルとチンポを飲み込んでいく。ゆつくりとチンポを埋め込んでいったが急に窮屈感を覚えた。  
これが処女膜・・・♡

おちんちん♡

こ、これが・・・  
○学生ま○こお♡  
たまらん

アッ♡

奥まで入れてイイかい？

グイグイおちんちん入ってくる。小刻みにおちんちんが震えてぞくぞくするう♡  
あたしのカラダドンドン熱くなってきてる♡

うん♡  
イイヨ♡

アッ♡

アッ♡

アッ♡

アッ♡



少し彼女の声が震えていたが私にとつては心地よくカラダを被せるようにして一気にチ○ポを突き入れた。

ふんね!!

おん!

お、おなかの中におちんちん感じるっ♡  
今までふさがっていたおなかの「ト」  
「ロ」こじ開けられているっ♡♡  
なんてキモチイイのお♡♡♡

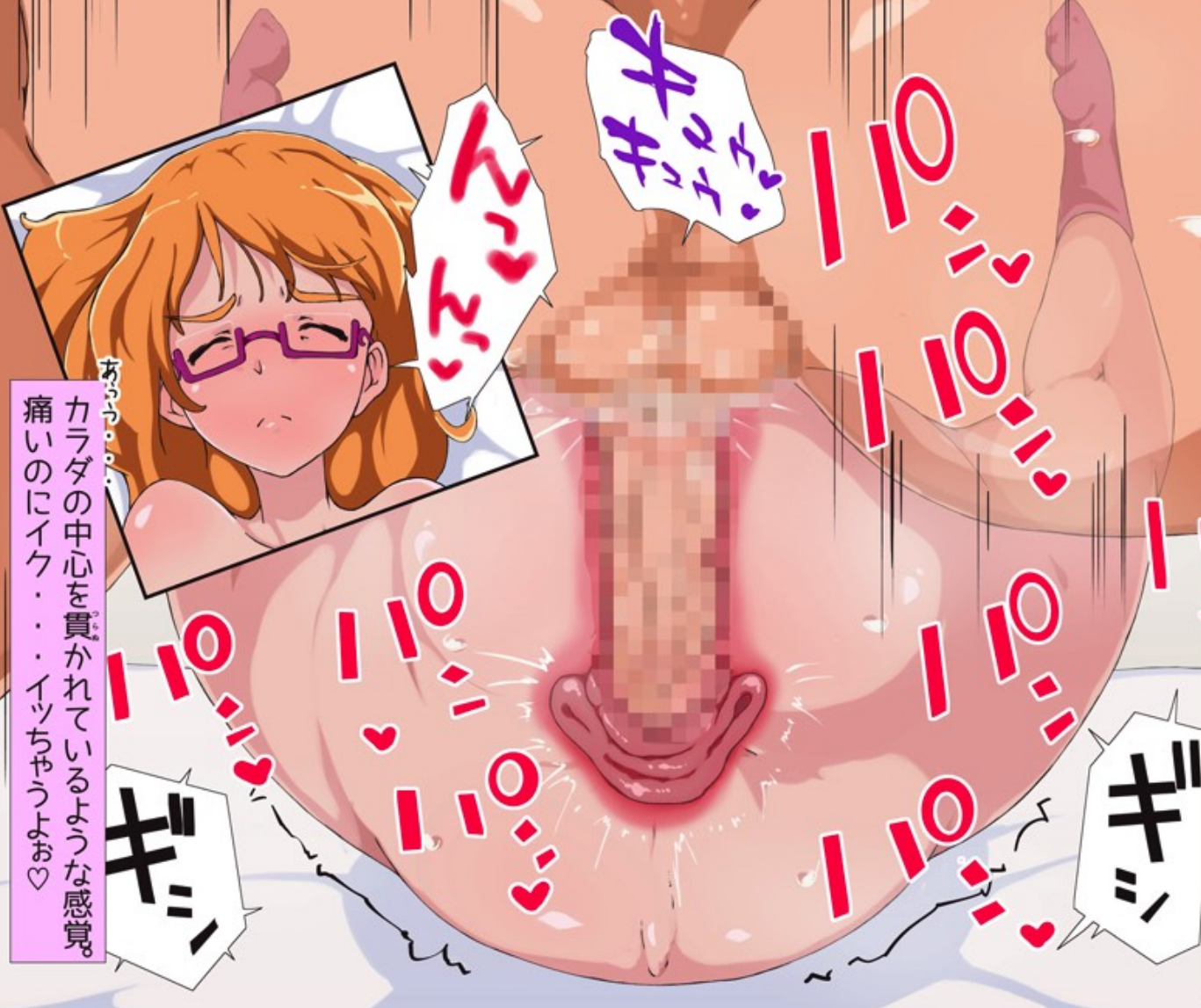




しかし、その抵抗がチ○ポを刺激して更に気持ち良くなってきた。アナルに射精しておいて正解だったな。彼女の膣では数秒と持たなかっただろう。

細い両脚が高々と上がると膣肉がキュウキュウと締め付けてきた。その抵抗をチ○ポに感じながら子宮口に到達すると今度は外に押し返そうとしてくる。これ以上入らないという事を女のカラダが訴えかけているらしい。

彼女は処女を奪われた痛みには堪えている様子だったが  
私は快感を教え込むため力を入れ込みチ○ポを激しく突きこんだ。



あーっ  
カラダの中心を貫かれていてるような感覚。  
痛いのにイク・・・イっちゃうよぉ♡





意識が飛びそうなのか  
脚がピクピクピクンと痙攣した瞬間  
ち○ぽをぐいと膣に押し付け  
ドクドク精子を注ぎ込んだ。

精液を出し尽くしチ○ポを膣から引き抜くと  
彼女は体を投げ出しグツタリしてしまった。  
おま○こはポツカリと開き  
子宮に入りきらなかった精液が出てきている。  
彼女の顔を見ると虚ろな表情だが  
セックスに満足しているようだ。

「ムン、ムン」

「ムン、ムン」

「ムン、ムン」

「がく、がく」

「がく、がく」

「がく、がく」

「がく、がく」

「はあ、はあ」

「はあ、はあ」

「はあ、はあ」

頭の中が真っ白になって……  
おちんちん入れることが  
こんなに気持ちいいなんてえ♡



放心状態の彼女を裏返し今度はバックから挿入し直す事にした。

アッ

ヒキ

ヒキ

アッ

ふん？

もうおちんちん大きくなってるう



さつき飲んだドリンクのおかげか  
処女ま〇こに入れた興奮か  
チ〇ポはもう勃起している。

今度<sup>ナマ</sup>はアナルに  
入れてあげるね♡

ドキ

ドキ

ドキ

ピン♡

ドキ

ピン♡

ドキ

ハア♡  
ハア♡  
ハア♡



はじめてのアナルと違い  
今度はほぐしていかない  
窄まっているアナルを  
チ○ポで抉り開けていく。



んん♡♡

おしり……♡  
入ってくるぅ……♡



やはり濡れていないため  
痛いのだろう。  
彼女は歯を食いしばって  
痛みを堪えているようだ。

●学生ッ！  
●学生ッ！  
●学生の穴ッ！  
腰の動き止められんッ！  
キンタマ袋が  
振り切れるッ！

ニア  
ニア

んっ  
んっ

んっ  
んっ

そのおかげで  
チ○ポの根元を  
キュウキュウと  
締め付ける。



ダメだっ!

ガマン出来んツ!

ハッ!

出るッ!  
ゴッ

ドクッ

ハッ!

おなかの中に  
熱いの出てるっ

精液を搾り出し引き抜こうとすると  
肛門が収縮してチ○ポに纏いついてくる。  
今までないような激しいシヨックで  
アナルが収縮しているのだから。  
私はあまりの快感に悲鳴をあげていた。

おしりがしびれてえ  
どうにかなっちゃおう  
でも、  
中に。中に。中に。  
うれしいよぉ♡

彼女はうわ言のように私を呼んでいる。  
意識が朦朧としているらしい。  
カラダの力が抜けるとスルンと  
チ○ポが抜けた。  
挟じ開けられたアナルは  
ポツカリ開いた状態で  
精液がドロドロと滴り落ちていた。

ポツカリ

どうだった?

高速ピストンで突かれた  
アナルセックスは?

アナルセックスは?

あな

アナル

あなるせつくすす  
キモチイイです♡

あなるせつくすす♡

ガク

ガク

ガク

はう……  
 もうダメえ♡  
 おっぱいいじられると  
 あたしおかしくなっちゃう♡

おふふふ  
 〇〇  
 〇〇

キスはまだだったね♡  
 今してあげるからね♡

乳首がこんなに勃起して  
 ○学生とは思えんなッ！

ゴッゴッ

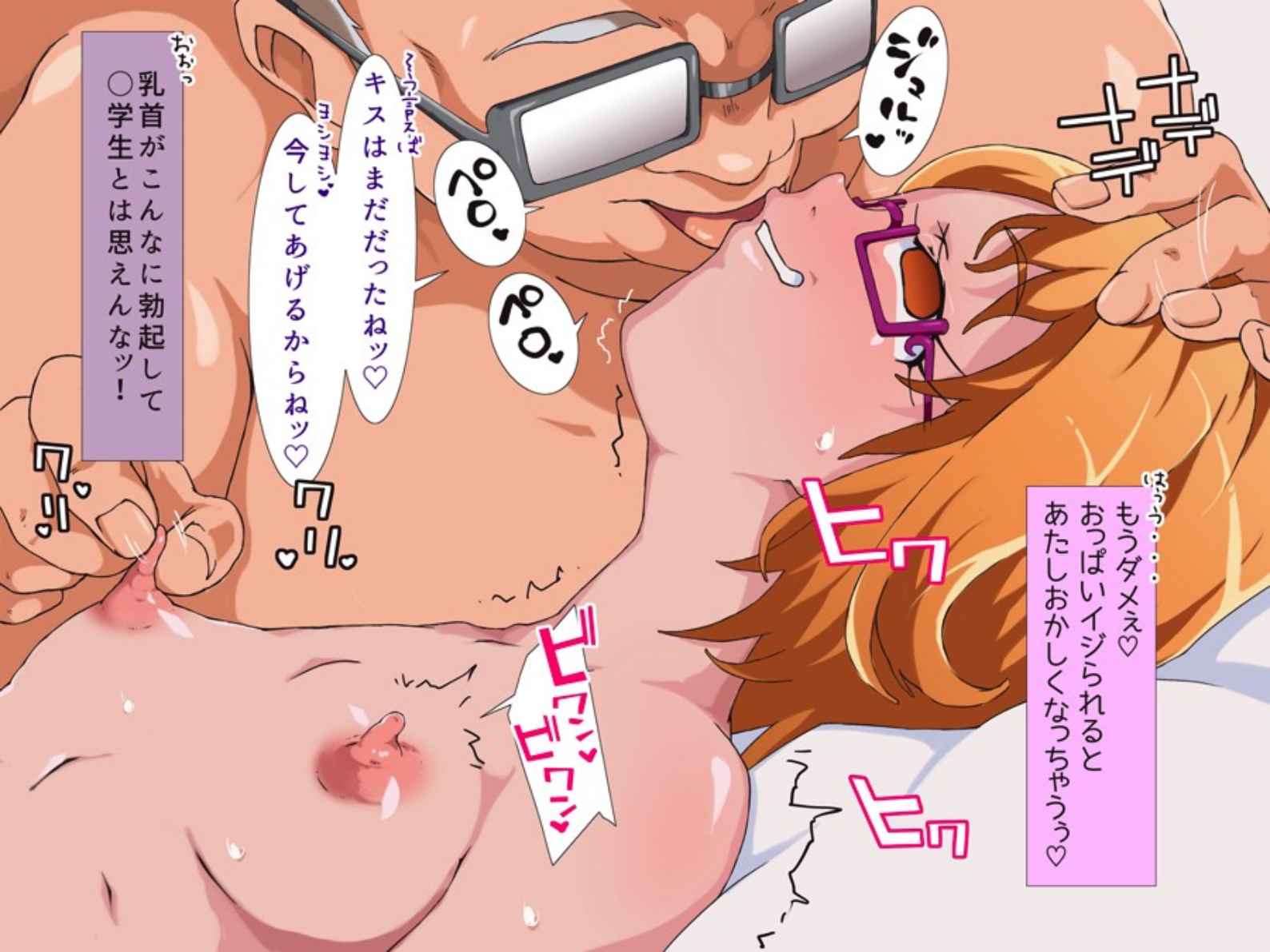
ゴッ

ゴッ

ッッ

ッッ

ッッ





彼女の甘いヨダレが  
 口一杯に広がるッ!  
 盲くていくらでも飲めるッ!  
 舌先を吸い立てると  
 乳首がピクピク震える。  
 キスで感じているのだ。

舌を出しなさい

先生の口が吸い付いて...  
 これがキス...  
 あたしのファーストキス♡  
 とつてもキモチイイよ♡♡

今度は私のを飲んでごらん♡

あっ……うぐっ  
こんなにイッパイ？  
先生のネバネバしたヨダレ  
飲みきれないよぉ♡

ほら♡  
ほら♡

彼女は本能的に舌を押し付け拒んできたが私は構わず大量のヨダレを送り込んだ。





はあ♡はあ♡  
キモチイイ・・・♡

はっ♡  
私のチ○ポも  
気持ち良くして貰おう

ハイ♡

グッ♡グッ♡

オオ♡♡

舌を絡ませて  
音を立ててしゃぶるんだッ



ズロ

ブツブツ

キラッ♡

キラッ♡

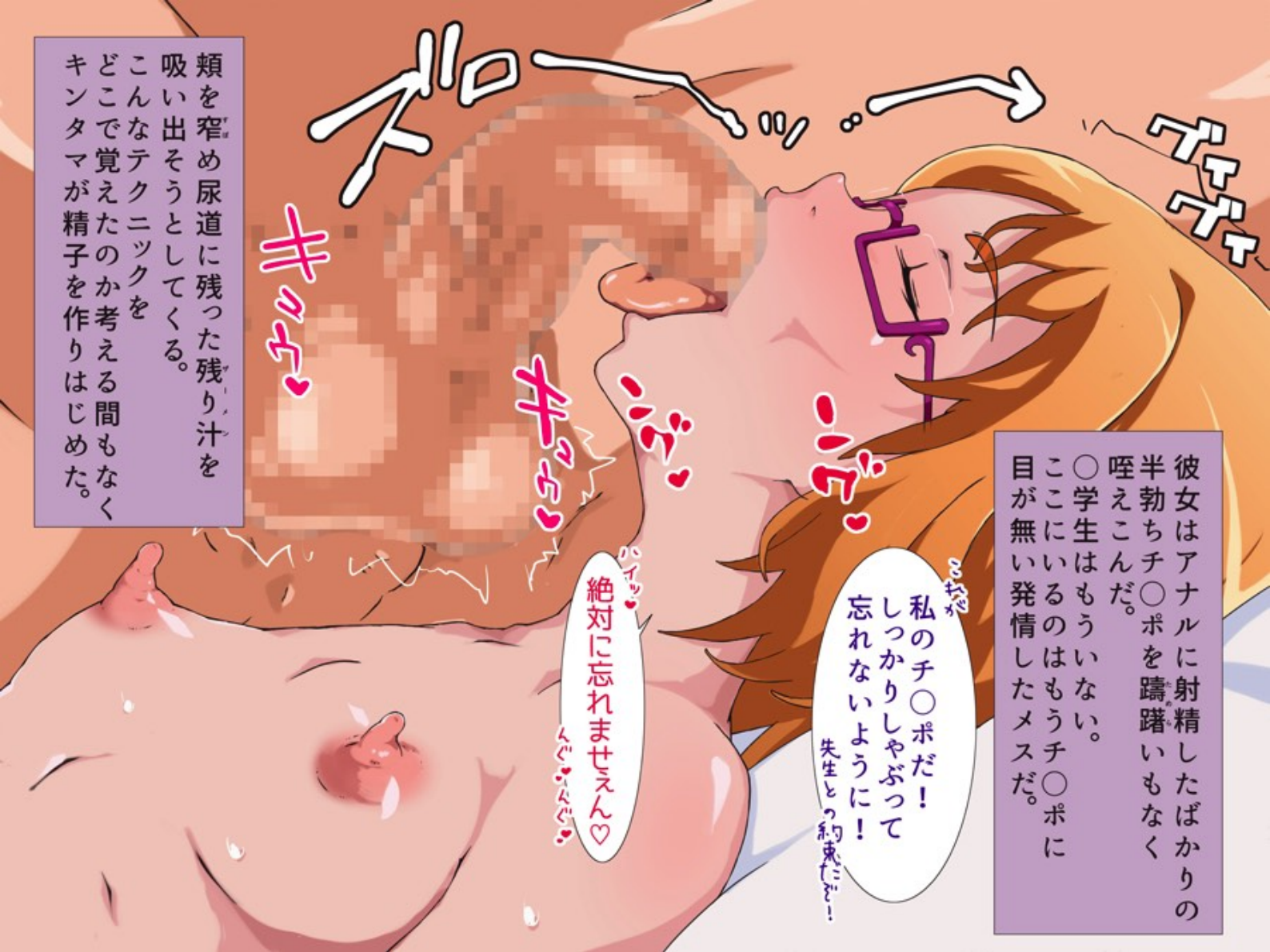
ニギッ♡

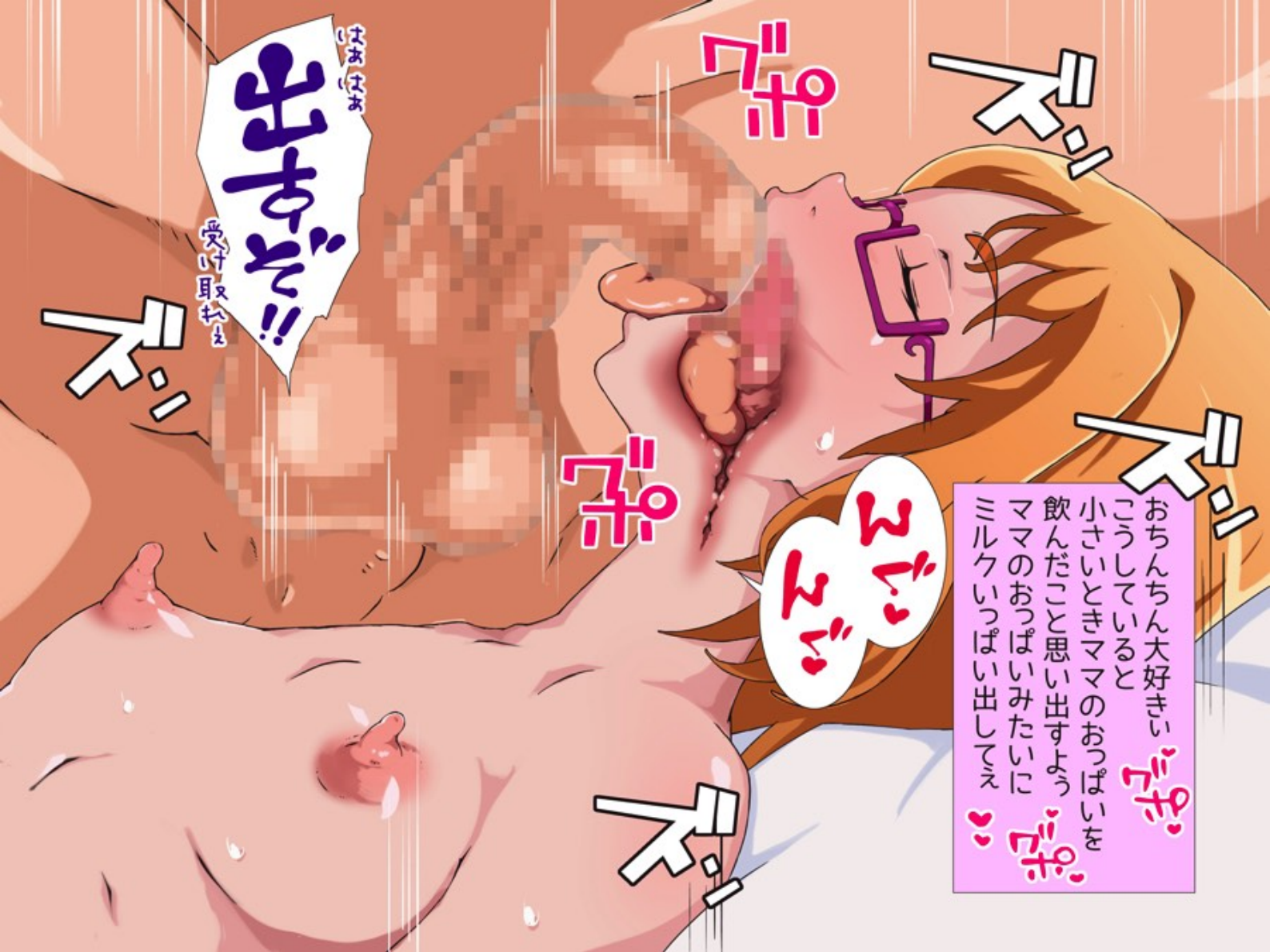
ハイッ♡  
絶対に忘れませえん♡

私のちのチ○ポだ！  
しっかりしやぶって  
忘れないように！  
先生とっ約束だぞ！

彼女はアナルに射精したばかりの  
半勃ちチ○ポを躊躇いもなく  
啜くえこんだ。  
○学生はもういない。  
ここに居るのはもうチ○ポに  
目が無い発情したメスだ。

頬を窄め尿道に残った残り汁を  
吸い出そうとしてくる。  
こんなテクニクを  
どこで覚えたのか考える間もなく  
キンタマが精子を作りはじめた。





ママ (ママ)  
おやん!!  
受け取れよ

ゴゴ

ズッ

ゴゴ

ズッ

んんん

おちんちん大好きい  
こうしているよ  
小さいときママのおっぱいを  
飲んだこと思い出すよう  
ママのおっぱいみたい  
にミルクいっぱい出してえ  
♡♡♡

ズッ



おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

おっ

彼女の穴全てに精液出し尽くし  
静寂に包まれた部屋を見ると  
カメラを見つけた。

初貫通記念日だ

私のチ○ポは？

私は彼女の顔を撮りはじめた。

せ先生のおちんちんで  
あたし  
何回もイカされちゃいましたあ♡

旦那様良かったデス♡



飲み込んだ筈の精液が  
鼻から飛び出てくる。  
あまりのマズさに  
胃が受け付けなかったのだろう。

すっかり飲み込んで♡

ハイ♡

オレ♡

コンコン...



にがい  
苦いよお...  
でも...  
先生が喜んでくれるなら♡

オレ♡

ふとベッドの下を覗くと  
ピンクのローターが現れていた。



激しいセックスでベッドがズレ  
ローターが転がったのだ。  
これで普段から隠れて  
オナニーしていたのようだ。

どれどれ

口を開けてごらんッ

♡…♡…♡

全部っ  
飲みましたあ♡

じゃあご褒美だ

あ…あたしの弱いトロロ…  
強弱をつけて責めてくるっ♡  
自分でするよりキモチイイ





は  
お  
女  
が  
...  
...

偉い...  
そういう優等生には...

MAX!!

あうう... 激しいいい♡  
頭ナデナデされながら  
責められると感じちやう♡

彼女は自発的に乳首を責め立ててくる。  
もう調教するまでもない。  
私のオナナになった事を確信した。

MAX!!

はうろう ♡  
はずかしい ♡  
先生え  
おしつこお  
止まらないよお ♡

おちこち...  
おもらしとは  
しょうがない娘だ

おー ♡  
おー ♡

おー ♡  
おー ♡  
おー ♡  
おー ♡  
おー ♡

おー ♡  
おー ♡  
おー ♡

おー ♡  
おー ♡

おー ♡  
おー ♡





処女ま〇こを頂いた翌日も  
彼女は校長室に来ていた。  
余程気持ち良かったのだろう。

おっ!  
どうしたんだい?  
授業がはじまるぞ!

さっさと  
今日はプール授業なんだあ♡  
あたしの水着姿みたいと思って  
着替えていたの♡

彼女の息が荒くなっている。  
やりたくて堪らないのだろう。  
私も抱きたいが  
ここは優位に立つために  
焦らしてみた。



ハッ♡

ハッ♡

水着に着替えるとカラダを摺り寄せてきた。  
スクール水着の布地が擦れて心地いい。

今日は忙しくて  
先生はこれから会議なんだ

そそんな...  
おねがいします。  
またイキたいの♡

はまはま

ヨミヨミ

仕方ないかま  
だったら  
私の言う事に従うんだぞ!

ハイッ♪

もうガマンでキかないのシ  
はやくう...♡  
白この出っぺん♡

ワイ  
ワイ

彼女を床に跪かせると  
私はズボンを下ろし  
チ○ポをシゴきはじめた。

チ○ポから出る  
精液欲しいんだろう？

ハイッ！

白いザーメン欲しそうです

うわあ♡  
だんだんおちんちんが  
ムクムクって  
大きくなってる♡



はみはみ  
瞬きしないでよく見るんだッ!

ハッ♡

ス…スグイッ  
おちんちんが小刻みに震えて  
お口が開いたと思うたら  
ザーメンが勢い良く出てくる…

オッ♡♡♡♡♡

出るッ!



はあはあ  
いいえ  
おまんこ  
おまんこ  
おまんこ

さあ♡  
飲んでごらんッ

彼女が精液を飲む事を  
躊躇っているのは  
不味いことを知っているからだ。  
カラダがブルブル震え  
拒んでいるが良くわかった。



ううう・・・  
ザーメン飲めないよぉ♡  
ニガインだもん・・・  
でも飲んで先生を喜んでもらいたい。

ブル

ブル

ドーン

音を立てて  
美味しそうに飲んだッ!

アイぞ!

ツンとした生臭い匂いが...  
あう吐きそう...



こっちは向いてっ！  
エロい、エロいッ！  
最高の○学生だッ！



精液を啜る音が部屋中に響き渡る。  
嫌がっているながらも  
嬉しそうに飲んでる。

彼女は「全部飲み込みました」と言わんばかりに掌を見せてきた。しかし、まだ精液を飲み込む事に躊躇しているようだ。



口の中で唾とよく絡ませてから飲み込んだッ!

んん♡♡  
ぐちゃ♡

ドロツとしたザーメンがロイッパイに…  
プルツとした玉子の白身みたいなのが  
舌で感じて…キモチワルイ…  
でも、あたし…

はっ



あうう……  
うぐう……  
うげエ

彼女は喉を鳴らしながら  
私の子種を飲み込んだ。



その言葉に  
もう私のチ○ポ無しではいられないだろうと確信した。  
下品な言葉を放つ口からはイカ臭い匂いが立ち込めてくる。  
当分何を食べても精液の味がするだろう。



口を開けて見せてごらんッ

ぜ、全部飲みましたあ

はやくうはやく  
そのおちんちんでおま○こ突いてえ

鼻から精液を垂らしながら  
おねだりしてくる。  
まだ精飲には抵抗があるようだ。

はあ♡はあ♡

ヤンヤン♡

ズル

ゴクウ♡

もっと…

もっとください♡

しかし、これから毎日飲ませてやれば  
卒業までには立派な  
チ○ポ狂いの生徒になっていくだろう。

楽しんで！

END